

令和6年度 どりーむ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した自己評価について基づき園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実地の共通理解を図り保育がより良いものになるように、園の自己評価として公表致します。

園全体の評価

◎今年度の評価

- ・各クラスの保育者が発達に応じた保育計画をたて、実践できた。
- ・さまざまな経験の機会を作りいろんな体験をする事で子ども達の学びにつなげる事が出来た。
- ・日々の生活や遊びを通して、体力づくりや健康な体づくりができた。
(柔軟体操、運動あそび、外遊びの充実)
- ・田植えやクッキングなどの活動を通して食育活動に関わる事が出来た。
- ・保育参観や個人面談の実施などで保護者と共に園児の成長を共に喜ぶ機会を設ける事が出来た。
- ・学びのキログ (あそびを通して育まれる一人ひとりの育ちに着目したドキュメンテーション) を作成することが出来、保護者へ向け配信する事で学びの共感が出来た。
- ・異年齢での活動時間を計画的に設ける事で、年齢に関係なく共に学び合い成長する事ができた。
(週1回のチャンプルーDAY、行事での共同発表)
- ・感覚統合の知識を用いて必要に応じて子どもの発達のサポートを行い子どもの育ちや情緒の安定につなげる事
- ・日本知育玩具協会の研修をもとに、職員が正しい玩具の知識を身に着ける事で園内の玩具の見直しを行い、子ども達が遊びを通して学びにつながるような環境を整える事が出来た。
- ・NPO 法人防災サポートセンター監修の元、災害時の避難訓練のあり方の見直しを行い、より安全かつ迅速に避難できる様にまた職員一人ひとりが正しい知識の元、速やかに判断できる様に総合訓練を実施するとともに、研修を行った。
災害用伝言ダイヤルを活用し、災害時でも保護者との確実な連絡方法を確保するため、保護者へも周知および訓練を行った。
- ・多くの職員が園内外の研修に参加する事で保育の質の向上に努めた。
- ・ノンコンタクトタイム (書類作業を設ける時間の確保) を設けたり、システムをうまく活用するなどして、職員の業務軽減する事が出来た。
- ・園舎前の敷地を園庭に改築し、「命の集まる場所」とし、自然環境を整えるとともに子ども達が自由に活動できるような環境作りに努めた。
- ・次世代の人材確保のためフルタイム職員の処遇改善を図り (完全週休二日制・家賃補助・ノンコンタクトタイム) 園全体の職員の働き方の見直しを図った。
- ・年間を通して保幼小学校の連絡協議会を開催し、交流を持ちながらミニ運動会やクラス検討会などを行うと共に小学校教諭による園見学を行ってもらうなど小学校との密な連携を図ることが出来スムーズな接続を実現できる事が出来た。

【自己評価をふまえた今後の課題】

- ・よりより環境の構成について保育者同士で学び実践していく必要がある
- ・年間を通して退職する職員が多く、働き方の見直しや業務の軽減を図る必要があると感じた。
それと同時に、職員全体が組織の一員であること、働く上での責務、社会性の規律など、再確認が必要な場面もあった。今後は、雇用形態の見直しを図りながらより一層組織としての団結を図るための改善する必要があると感じた。
- ・新たな職員を増えた事により正規職員を中心に人材育成のスキルを身につけ園全体のスキルアップに努めたい。
- ・年度末に大きな怪我（骨折）を伴う事故を起こしてまい、職員全体で原因追及に努めた。それを踏まえて、今後このような事故を起こさないためにも職員全体で環境の見直し、見守りの見直しを図り再発防止に努めたい。
- ・子ども達がより主体性を持つためにはどのような保育が適切か、環境構成や発達段階に応じた保育、保育全体の質の向上についての研修や保育者としての個々のスキルアップなどの充実を計る必要があると感じた。

【総評】

保育者が子ども達のすこやかな育ちのために保育に取り組む事が出来ました。

毎月配信している「学びのキログ」では子どもひとり一人の遊びから学ぶ経験や育ちを保護者へ共有することが出来た。また、乳幼児救急救命やAEDなど専門的知識を持つ看護師による研修などを行い、保育者のスキルアップにつなげることが出来た。特に、エピペンを所持する園児がいるため、アレルギー・エピペン使用に関する研修は全職員が受けることが出来有事の時に備える心構えが出来たと思う。園舎前に新たに整備した園庭は、子ども達が自然の中で体を動かし探求できる事を目的とし、その一歩として築山の設置をすることができた。年長クラスに落成式をしてもらい卒園記念として看板を作成するなどし、職員も園児も心待ちにしていた。今後も植樹したり砂場の設置、ビオトープの設置などさらなる環境づくりに努めたい。

4月に津波警報が発令され、一斉避難した事をうけ、防災サポートセンターの指導を受けながら、避難バックの見直しや経路の確認、災害時の連絡手段などより一層の安全対策に努める事ができた。

年間を通して、保幼小連絡協議会を持ちながら、小学校との密な接続を継続しながら、

「かけはしカリキュラム」の作成を進めていけたら良い。

また、今年度は職員の入れ替わりがあり、園の体制を崩さないよう、細かな職員への助言や正規職員への識づけが必要である。組織としてさらなる強化をするためにはどうしたらよいか、管理者・正規職員中心に模索する必要がある。

今後も、子どもの主体性を大切にしながら、保育室内の環境を充実させることはもちろんの事、個々の学びを深めなら日々スキルアップしていきたいと思ます。

また、職員同士保育実践の振り返りや自己評価や園評価について話し合いの場を持つ事で、

P D C Aサイクルを活用しながらさらなる保育の質の向上につなげられれば良いと思います。